

みやぎの ICT 教育研究専門部会
平成 30 年度 研究報告書
～探究心を育てる ICT 教育の推進～

平成 31 年 5 月

みやぎの ICT 教育研究専門部会

目次

はじめに

第1章 専門部会参加校の実践について

- 第1節 宮城県松島高等学校
- 第2節 宮城県気仙沼高等学校
- 第3節 宮城県登米総合産業高等学校
- 第4節 宮城県多賀城高等学校
- 第5節 宮城県蔵王高等学校
- 第6節 石巻市立桜坂高等学校
- 第7節 宮城県南郷高等学校
- 第8節 宮城県伊具高等学校
- 第9節 古川黎明中学校・高等学校
- 第10節 仙台城南高等学校

第2章 研究協議会について

- 第1節 研究協議会の概要
- 第2節 ICT教育フォーラムの概要

第3章 宮城教育大学教職大学院の学習とみやぎのICT教育研究専門部会

第4章 資料

- 第1節 会則・ワーキンググループ申し合わせについて
- 第2節 ICT利活用技術研修会について

はじめに

みやぎの ICT 教育研究専門部会長
岡正明（宮城教育大学副学長※）

GPS を搭載し、タブレット端末を通じて導入されたプログラムに従って田畑を耕す無人トラクターが、市場に出回るようになりました。人工知能は、人間が思いも付かない手を打って、囲碁のトッププロに勝ちます。カメラやレーダーを通じて周囲の状況を読み取り運転者の安全な操作を助ける装置が、多くの自動車に搭載されています。

近未来、プログラミングされた自律型ロボットが人間を仕事から解放する一方で、人工知能が人間に指示を出すことが、日常生活に見られるようになるでしょう。また、情報通信の発達は、世界の国々の垣根をかつてないほど低くするとともに、多様な価値観が渦巻く世界に私たちを巻き込んでいきます。

子どもたちが未来を豊かに生きることを思い描く私たちには、今どのような教育を施すことが求められているのでしょうか。

子どもたちは何ができなくてはいけないのか、そのためにはどのような学校教育が必要なのか、私たちには追究しなければならないことがたくさんあります。

みやぎの ICT 教育研究専門部会は、ICT 教育に係る研究を 5 年間にわたって続けてきました。

毎年仙台城何高等学校で研究協議会を開催し、研究の成果を多くの皆さんと共有してきました。当初はタブレット端末の教師主導型の授業での活用方法の検討が主でしたが、そのうちに問題解決型の授業や、個の進度に応じた授業、生徒どうしのコミュニケーションのある授業など、ICT を用いて生徒が知を豊かに活用する授業の研究に深化していったように思います。平成 27 年度からはこのような議論の展開の中に、宮城教育大学教職大学院の学生を置かせていただいています。彼らに関わる子どもたちに大きな意義があることだと考えています。

また、平成 29 年度から「ICT 利活用研修会」という形で、多様な校種の先生方と、私たちの研究成果を共有する活動を始めました。平成 30 年度は利府町（利府町教育委員会と共催）、東松島市、気仙沼市（気仙沼市・宮城教育大学連携センターと共催）、仙台市で各 1 回ずつ、都合 4 回の研修会を開催しました。

これからも、子どもたちが未来を豊かに生きることを思い描きながら、宮城のよりよい ICT 教育を考えて行きたいと思えます。

教育に関心のある多くの方に、私たちの活動に興味を持って頂ければ幸いです。

平成 30 年度のみやぎの ICT 教育研究専門部会の活動は、独立行政法人教職員支援機構から宮城教育大学が委託を受けた「教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業（プログラム名：教育クラウドでのリフレクションを取り入れた ICT 活用型研修会と地域の研修体制の構築）」のご支援を受けて実施したものです。